



## 私の骨格を作るそろばん

(株)コマツ 北 晃 充

私の実家は、祖母と父がそろばん教室の先生をしており、自然と幼い頃よりそろばんというものに触れていたように思います。思い返してみますと、小学校1年生になったことを機に祖母よりそろばんを習うこととなりました。祖母は若い頃、県大会や全国大会で上位入賞したこともあってか、それは大変厳しい妥協を許さない指導であったと記憶しております。時には反発もしましたが、しかし、それによって何事もメリハリをつけること、けじめをつけることの大切さを当たり前のように身に付けたように思います。また祖母とよく散歩に出かけ、暗算の問題を歩きながら問答していました。そのことが子どもながらも楽しく自然と暗算力が身に付いたと思います。各種競技大会にも参加し、上位入賞を果たしたことや、珠算・暗算の段位資格取得をしたことは、この上ない喜びでした。小学校6年間、珠算教室において、ライバルと競いあった経験や、毎年夏休みには珠算連盟が企画してくださった旅行等を通して、たくさんの交友関係を築けたことは、私にとってかけがえのない大きな財産となっています。

そろばんを通して培った計算力・暗算力・集中力は私の血肉となり骨格となり、今の日常生活や仕事において欠かすことのできない、極めて重要な役割を占めているように感じています。私は現在、建設機械(株)コマツに勤務しており、商談で部品の購入において打ち合わせをすることがよくあり、概算で瞬時に暗算で計算をし、スムーズに優位に事を進めています。また、昨年よりアメリカのキャタピラー社と唯一競合するブルドーザーの新機種開発の業務に携わっております。そこでは約200人ほどの人と関わりながらその車を開発しております。私の仕事はその開発業務を推進することとして、日程・コスト・品質を全体最適で推し進めていかなければなりません。それには情報を整理する能力、エクセルを使ってのデータ整理

など様々な情報を整理して開発部隊に示し、周りの人たちの合意をとりながら進めていかなければなりません。そこで重要なことはデータで語ることです。データで語ればすべての人が理解できます。ここでいうデータというのは数字のことです。感覚や経験でなく、数字で示すことで周りが納得でき、それを根拠に多くの人がある方向を向いて全体で進めていくことができます。ここでもやはり、数字を扱う基盤としてのそろばんが大いに役立っています。

また、今の仕事において、与えられた納期で全体をよりよい方向へ持っていく、方針付けを行う場面が多くあります。それを開発日程内で、与えられた時間内で、それらを行っていかねばいけません。これを達成するためには集中力が必要だと思います。集中力があるのとないのではできあがった成果に大きな差があると感じております。短時間で頭の中で情報を整理し、それを吐き出し、相手に伝える。まさに集中力こそが成否のカギを握っているといっても過言ではありません。ここでもやはりそろばんに身に付けた集中力のお陰と感謝しております。このように、私自身そろばん経験の良い面を享受し続けており、今後もそろばんは私の公私において大きな影響を与え続けていくことでしょう。

昨今、IT化が急速に進み、計算道具としてのそろばんは忘れ去られつつあるようですが、学習用具としてのそろばんは見直されてきていると聞きます。右脳と左脳を同時に活用し手や目を同時に使うことで脳に刺激を与え、脳力を開発するのに非常に優れた教具であるからです。数感覚が豊かになり十進位取り記数法の理解が容易になり数の相対的な大きさがとらえやすくなります。まさに日本の伝統的文化であるそろばんが今後益々発展し、普及していくことを切に願ってやみません。